

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.95
2021.3



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

交尾せずに産卵した“アカヒゲドクガ”

2月初旬のある日の夕方、仕事机に置いていたシャーレの中でモソモソと何かが動いていました。それは繭から羽化したばかりで翅も開ききっていないアカヒゲドクガでした。遡ること昨年の12月初旬、除雪機のカバーにくっついていた繭をスタッフが見つけ、シャーレに入れて保管していたものでした。一心不乱に狭いシャーレの中をグルグル回っている姿はそれまでの“静”から一転して“動”そのもの。大きめの水槽を飼育ケースにして枯葉や小枝などを敷いて様子を見ることにしました。ケースに移すとそれまでの動きがピタリと止み、ガラス面に留まると、体の半分にも満たなかった翅が目に見えて伸び始め、ほどなく体を覆うマントのようになりました。「仲間のいない時期に羽化してもなァ…」と少し気の毒に感じていましたが、それから10日後。切り株の側面やガラス面に渦巻き模様の卵が産みつけられていました。え？どうして？1頭しかいなかったはずなのに？アブラムシのように単為生殖するガがいるの？羽化してから旅立ちまで約1ヶ月。物言わぬ彼女は静かな高揚感と数多くの不思議をもたらしてくれました。

What is “Akahigedokuga”?

「メスの触角は赤くないドクガ」

ドクガ科

開張：♀65～70mm

♂51～55mm

分布：日本全土

平地から山に生息。幼虫の食草はブナ科のコナラ、クリなど。成虫は口吻が退化して何も食べずに過ごす。翅の付け根付近に黒色の環が3つ重なる。オスの触角はメスより太く赤褐色。

(同定協力：岩手虫の会 三井 秀男 氏)

(参考図書：「日本の昆虫 1400」)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

『種子たちの知恵』より
多田多恵子

植物は大地に根ざし、
動けません。その代わり
タネというマイクロカプ
セルに機密情報を詰めて
送り出しました。タネた
ちは自由に空間を移動
し、時を超えて未来へも
旅します。

倒木を読む

第6話
樹木の原点・不屈のタネ



冬から春へと移ろう中で、雪がとけ様々なものが顔をのぞかせてくる。春一番等によって枝にしがみついていた葉や木の実も飛ばされ、雪原の情報量はさらに上書きされていく。木々の落とし物を見るのは楽しいが、とりわけタネ（種）はそれぞれ個性があり、お母さん木を推理するお題にもなるので、つい探してしまう。網張の雪上で見つかるタネの数の多さでは「風散布」を得意とするダケカンバが圧倒的だ。注意しないと見過ごしてし



まうほど微小だが、よく見ると薄い膜の翼がついている。カバノキ科はヤナギ類と並んで、火山や土石流、山火事等による攪乱跡地に他の植物に先駆けて定着するパイオニア植物の一つだ。ほぼ毎年コンスタントに小さなタネを大量に作っては風のカで広範囲に飛ばし発芽の機会をうかがう。しかし、多くのタネは動物や昆虫、小動物、菌類に食べられてしまう。または、光や気温、土壤環境など条件が整わずに休眠したまま生涯を終える事も少なくない。わずか2~3mmしかないちっぽけなタネから、時に幹回りの直径が80cmを超えるような大木に成長する事実に、困惑と共に畏敬の念を覚える。人とは違った尺度で静かに種を存続させていく樹木の生き方に、ただ感服するばかりだ。



Q. 森に小さな矢印のようなものがたくさん落ちていたけど、あれって何なの？

A. ダケカンバの果穂がばらけた果鱗というパーツだよ。果穂は固い毛虫のような見目で枝先についていて、風が吹くと果鱗が外れ翼のついた堅果（タネ）を散布します。タネについている翼の幅が狭いのがダケカンバ、広いのがウダイカンバなので識別が可能だよ。カバノキ科のタネは、ヒガラやマヒワの冬を越す貴重な食料にもなります。



アミハリ・バーズ Vol. 38

マガン

科名：カモ科
全長：約72cm
生態：冬鳥
分布：宮城県伊豆沼等の
渡り鳥の飛来地



K. Hirano '21

輪かんじきで森を散策していると、上空から「カハハ、カハハ」と聞きなれない声がありました。見上げると30~40羽程の黒い野鳥の群れが北から南の方へ飛び姿が。冬鳥は北帰行中に採餌場や水場を求めて南へ移動する事もあるようです。マガンを見て思い出したのは、子どもの頃に見た『ニルスのふしぎな旅』というアニメです。妖精の力で小さくされた少年ニルスがガチョウのモルテンに乗って、ガンの群れと北欧のラップランドを目指すという内容でした。網張上空を飛んでいたマガンたちも、やがては海を越えてシベリアの営巣地へ帰って行くはず。鳥のように地上を眺めてみたい、遠くへ飛んで行きたいという欲求は人類共通の夢なのかもしれませんね。

網張 岩手山

私のっておきの1枚



登山道のない犬倉の平坦部（犬倉展望台から岩手山側）は、普通歩いてみたいとは思わない所でしょうが、冬の積雪時は思いっきり好きなように歩け、又景色も素晴らしい所です。

鎌倉森の頂上で、360度の景色を堪能してから、一度下って急坂を登り、ようやく平坦部に着きます。網張スキー場に降りることだけを考えると、広い雪原が冒険の国の入り口の様にさえ感じます。振り返って岩手山を見ても、鎌倉森からの景色とは全く違います。雪原からそびえる感さえします。自分の背より高い木は全く無く、視界を遮るものは有りません。

早朝に行けばこの付近は動物が自由に動いた足跡が残り、人間の足跡は無く自分だけの世界となります。

曇りがちの日に、急に差し込んできた光が辺りを金色に染め、雪原の一部をスポットライトの様に照らしたとき、歓声を上げたくなるような景色になりました。同じような景色を又見ようと何度も挑戦していますが、自然は自由になりませんね。

岩手虫の会会員 三井秀男 氏

◆◆◆ 網張ビジターセンターリニューアルのお知らせ vol.2 ◆◆◆

盛岡管理官事務所の工藤です。この冬は皆様どのようにお過ごしてましたか？「おうち時間」という言葉をよく耳にしましたが、私は厚着でこの寒い冬を乗り越えました。

さて、前回のニュースレターにて網張ビジターセンターのリニューアルについてお知らせいたしましたが、本日の第二弾では館内のいたるところに使用されているイラストデザインについて紹介します。

地元のデザイナー、さいとうゆきこさんのイラストです。

パステルカラーの柔らかい表現で、網張ビジターセンターが明るく軽やかな雰囲気となりました。お越しいただいた皆さんに「ここはどんなところ（施設）なんだろう？」とワクワクしてもらえるのを想像してワクワクしています。

よく見ると岩手山のイラストの麓にはきのこや動物が描かれています。

本日紹介していない箇所にもイラストが沢山ありますので、どこにイラストが描かれているかを是非ご来館の上、探してみてください。

国立公園でお会いしましょう。



（岩手山の四季の彩りが一枚のイラストで表現されています）

写真提供：岩手山地区パークボランティア

3月6日(土)「雪の鎌倉森をめざす」 (冬山登山体験)



行事の前の数日は春のような暖かな日が続き、雪の状況から今回はかんじきでの登山となりました。樹林帯を抜けると時折強風が吹き付けましたが、山頂では360度の大パノラマを楽しむことができました。コース途中では、動物の痕跡やユキクワケラ、標高によって変わるブナの様子を観察しました。参加者から「野生動物になった気持ちで森を歩けた」「5年前からずっと参加したかった。ようやく登れた」「かんじきは初めて体験した」等の感想。総勢26名参加(小学生1名含む)

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

-網張の森雪上ハイキング-

1月9日～3月28日 土・日・祝日(行事日除く)



椅子みたいに
なっているよ!



風の強い日も森の中ではそれほど強い風を感じません。凜とした空気の中、静かな森に自分の足跡をつけながら歩きます。時折枝先に野鳥の姿も・・・。

網張ビジターセンターの冬の人気イベントの1つに『網張の森雪上ハイキング』があります。木々の姿や冬芽、動物の足跡などを観察しながら1時間ほど歩きます。3月13日までに18回延べ73名にご参加いただきました。

◆◆◆ 現在開催中の企画展 ◆◆◆

- 荒川三郎 写真展 -

3月「星と岩手山」 4月「四季の岩手山」

期間：3月1日(月)～4月30日(金)

時間：9時～17時(3月のみ毎週火曜日休館)



荒川三郎氏 プロフィール

1949年盛岡生まれ 盛岡育ち

20年ほど前より撮影を始め写真を撮り続けている

写真展について… 3月は岩手山の上に輝く北極星、カシオペア、北斗七星などを盛岡側と八幡平側とで静止した星と回転している星の姿を追いかけた写真、4月は見上げる地域によって、さらに季節によって変化する岩手山の容姿を季節の彩りを添えて追いかけた写真展です。

インフォメーション

ビジターセンターの自然ふれあい行事は初めての方でもご参加いただけます♪お気軽にお問い合わせ下さい。

4月4日(日) 根開きのブナの森で春を探そう

9:30～14:00 網張ビジターセンター集合

定員：10名 ※要事前予約

参加料：大人500円 小学生以下300円

5月9日(日) 鞍掛山麓・花と鳥の競演

“愛でる”ハイキング

9:30～14:30 たきざわ自然情報センター集合

講師：工藤 宏 氏(岩手植物の会)

定員：10名 ※要事前予約

参加料：大人500円 小学生以下300円

☆詳しくはビジターセンターまでお問い合わせ下さい。

☆新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になる場合がございます。最新の開催情報を事前に確認下さい。

☆2021年度の年間行事一覧は4月下旬以降にHPでお知らせいたします。また館内にも設置予定です。

モモンガのつぶやき

恐ろしいほどの風が次第に止んで、暖かな日差しのもとカラ類たちがにぎやかに鳴きかわしているのを見ると、こちらもほっとします。そんな時は下手な口笛を吹いてカラ類たちに「元気かい?」と呼びかけます。基本的に食べ物探しに忙しくしらんぷりな小鳥たちですが、たまに寄ってきて鳴き方のお手本をみせてくれます。上達しないとね。(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 1月 961人 ◆ 2月 1,202人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 1月 -8.5℃ ◆ 2月 -7.2℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡栗石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期 (11月から3月末まで) 9時～17時 毎週火曜日休館